

くよみ通信

No. 23 2020/10/01

芋沢街道を極める (木村・記)

9月3日、「芋沢街道」の極め歩きです。視点は街道の時代ここを歩いた人の感覚で観察することです。

宮城総合支所の熊谷さんにも、取材参加していただきました。

まず「仙台藩火薬製造所跡」へ。碑があります。地元の方が自費で建てたそうです。

碑の後ろのお宅を訪ね、玄関先に飾ってあった写真を見せ

↑一の坂付近に鎮座する「庖瘡神」



↓「木のしおり」贈呈式で、田中校長先生に在校生分として850枚、お渡しした



ていただきました。昭和30年代この地にあったかやぶき屋根の住宅が写っていました。

庖瘡碑に向かいます。碑には「南無阿弥陀仏 寛政4年芋沢村」と刻まれています。

江戸時代は疫病が流行ると、村の境界に碑を建て(村のロックダウン)、入って来ないことを祈るしかなかったのです。

最初の坂、「一ノ坂」を上ります。途中にJR仙山線「芋沢街道踏切」があります。昭和4年開通ですから当時は「芋沢街

↑完成した「木のしおり」。青陵中等教育学校の先生たちが、これで学校林教育に歩み出してくれるとうれしい



2020年10月の活動予定

10/1(木)定例会 「横向山の石碑群」講話 (雨天)

- ◆解説は中川継助氏
- 集合 10:00 吉成市民センター
- 会員のみ参加

10/8(木) 「素材集め」青陵の森

10/15(木)定例会 「中山街道」

- ◆狼石・中山石碑群などを散策
- 集合 10:00 吉成市民センター
- 会員のみ参加

10/22(木) パソコン教室の石川先生と打合せ

10/29(木) 「素材集め」中山街道

※10月は毎週、代表が出席しておりますので、時間の許す限り、参加してください。

道」として使われていたのです。

これを渡ると「二ノ坂」です。踏切から見ると北側の貝ヶ森団地から南側に大きく削られており、往時の勾配はかなり急なものだったと思われれます。

「昔、大沢方面からくる子供たちは、町まで薪、炭など背負わされ、帰りお菓子など買ってもらえるのが嬉しかった」と、聞きました。

私がこの地に住居を構えた当初、国見峠の坂には市内の夜景を見るアベックの車が数珠つなぎでした。

「木のしおり」贈呈式。

9月15日、ニッセイ緑の財団から送られてきたものに、市民センターで裏面を印刷した「木のしおり」が、青陵中等教育学校に贈呈されました。

校長先生いわく、本校は学校林が広く、また「珀杜」や「くよみ郷土研究会」等が学校林の環境整備、自然保護活動をしていることは大変有難いし、教育の一環としても取り入れたいとのこと。

後に、先生たちにも配布したいとの申し出があり、追加贈呈しました。

青陵の森 観察担当を決めよう

青陵の森にある多様な植物と動物を観察し、いつかは『観察ノート』として発行しようと、会員がそれぞれ担当を決めることになりました。

9月17日、各自最低3様(花・実・葉等)の写真と解説を掲載することにし、何を担当するか、見当をつけました。